

児童が考えること、やり切ることを楽しむために



【考えること、やりきることを楽しむ児童の姿(例)】

- | | |
|---------------|--------------------------|
| 動き出す自分を楽しむ | ▣ 「おもしろそうな問題だな」 |
| 一人で考えることを楽しむ | ▣ 「ここに線（補助線）を引いたらどうなるかな」 |
| みんなで考えることを楽しむ | ▣ 「へえ～、そういう考え方もあるのか」 |
| やりきることを楽しむ | ▣ 「難しかったけれど、最後までしっかり考えた」 |

【ポイント1】 単元や授業の場面を通して

<導入場面について>

○児童が意欲を高めるよう、学習課題の内容や提示の仕方、解決のための見通しのもたせ方を工夫する。

<展開場面について>

- 児童が自分なりの表現（図や式、言葉など）で問題を捉え、考えを表現できる活動を設定する。
- 目的を明確にして学級全体で、互いの考えを表現し、伝え合う活動を設定する。
- 正解だけでなく、多様な考え（方法や表現等）や意見、疑問やつまずきなどを取り上げ、意味理解が深まる授業展開にする。



<まとめや振り返りについて>

- 学習したことや新たな疑問などを児童の言葉でまとめている。
- 学んだことを活用して、適用題を解いたり、1時間やまとまりごとに振り返りを行ったりしている。

【ポイント2】 児童の姿を肯定的に捉え、適切に価値づける

<授業の中で>

- 児童が考えたことや表現したことを肯定的に評価し、働かせている数学的な見方・考え方を適切に価値づける。
- 「考えることは楽しい」、「考えてよかった」と児童が感じられるよう、一人一人の考えを認め、関連付けたり、整理したりする過程を大切にする。

<家庭学習の充実に向けて>

- 授業ででてきた疑問などの発展的な内容を家庭学習の課題にするなど工夫する。

